

開南中學生ニ告グ
 一、一年及四五年ノ近距離在住生徒ハ來ル
 牛便ハ來ル二月二十六日午後
 一時識名ニ集スベシ
 一、遠隔ノ地ニ在住ノ者ハ豫備
 二子以住野明ニ識名事務
 所ニ通報スベシ(但警察令
 ノ際ハ解除ノ翌日)

開南中學校

廣 告
沖繩師範學校
 本校豫科入學考査ハ男子女子部
 共左記ニヨリ各部ニ於テ豫定
 通り之ヲ施行ス
 男子部 二月二十六日 午前
 八時
 女子部 二月二十六日 午前
 十時(國頭及島尻・中頭ノ
 離島)二月二十七日 午前
 十時(二市及島尻・中頭)
 但二月二十五日以降警報發令
 アリタル時ハ別掲ス

開南中學生ニ告グ
 一、一年及四五年ノ近距離在住生徒ハ來ル
 二月二十六日午後一時識名ニ集スベシ
 一、遠隔ノ地ニ在住ノ者ハ葉書ニテ現住所
 ヲ明確ニ識名事務所ニ通報スベシ(但警
 報發令ノ際ハ解除ノ翌日)

開南中學校

(『沖繩新報』昭和二〇年二月二二日付)

沖繩師範學校
 本校豫科入學考査ハ男子女子部共左記ニヨ
 リ各部ニ於テ豫定通り之ヲ施行ス
 男子部 二月二十六日 午前八時
 女子部 二月二十六日 午前十時(國頭及
 島尻・中頭ノ離島)
 二月二十七日 午前十時(二市及
 島尻・中頭)
 但二月二十五日以降警報發令アリタル時ハ
 別掲ス
 (『沖繩新報』昭和二〇年二月二四日付)

3 県外から那覇の子らへの激励

県内の子供たちから軍人への慰問文や慰問袋などはかねてより行われていたが、一〇・一〇空襲後、他県の子どもたちから一種の慰問文や義援金などが舞い込むとは、那覇の子どもたちも本来予想だにできなかったに違いない。しかし、これまで「戦地の兵隊さん」などと、「銃後」の沖繩から送っていた慰問文や慰問袋が、逆に沖繩(那覇)の自分たちに舞い込むとは、感謝の念も一入ひとしおとはいえ、最早、沖繩も「銃後」ではなく、第一線の「戦地」と化していたのである。

(1) 徳島県より

「可憐な純情切々／相寄る魂／徳島のヨイ子達の激励」
 空襲罹災者に對する救援の同胞愛は滅敵の痛憤□つて縣内外から□然として結集され縣民を激励奮起させてゐるがこれはまた徳島縣のよい子たちが送る真心こめた慰問金―空襲を受け雄々しく立ち上らんとする那覇市国民學校児童慰問激励のため適當にお使ひ下さいと川内村川内北国民學校児童一同から金百圓、小國民新聞に寄託し激励文に添へて那覇市へ送られてきたが未だ見ぬお友だちへ送るよい子たちの慰問の言葉はこう綴られて

ゐる。

那覇の国民學校の皆さんお元氣ですか、この間は敵の空爆を受けて大変でしたね。その後放送された大戦果を聴き私達はをどり上るやうな喜びで一杯でしたがその中には何か心にかゝるものを感じました。それは那覇の皆さんがどうしてゐられるかといふことでした。私たちの學校では校長先生が那覇市空襲の模様につき校内放送をなさいました。その中の一節にお母さんと呼ぶ可愛い女の子にまで敵が掃射をしたといふことを聴き私たちの血は逆に流れるやうな怒を感じました。勉強する建物のない學校、住む家もない人々を想像して全くじつとしてゐられない氣持です。それで皆んな相談した結果、慰問のお金を送ることになり今朝早〇集まつたのがこの百圓のお金です、これは私たちが繩をなつたり、いなごを取つたりカマスを織つたりお祭りのお小遣ひをしまつたりして貯へてあつたお金です。私たちの眞心をお受取り下さい。また皆さんの力になるやうに成績品も次々に送りたいと思ひます。那覇の国民學校の皆さん私たちのことを想像して下さい。四国の吉野川の下流にも皆さんのために握りこぶしをふつて悲憤の涙を流してゐる七百の子がある否や日本中の子供たちがあなた方と共に戦つてゐることを忘れないで下さい。

〔沖繩新報〕昭和一九年二月二五日付

(2) 群馬県より

「相寄る幼な心／縣外ヨイ子らの激勵」

この日縣教學課に群馬縣伊勢崎市の北國民學校高等科一年生伊中秀子さんから金拾圓とお氣の毒な那覇のヨイ子の皆さんに學用品でもお求めになる時お傳ひして下さい、勝ち抜くためです最後まで弱音を吐かずに頑張りませうと激勵文を送つてゐる、又朝鮮平北〇山郡の鳳和公立國民學校のヨイ子たちから金二十三圓五十銭が贈られ、これはボクらが學用品代を節約したり柴を運んで得たお金ですせめて學校道具の一部にでも慰問文集で寄せてあつたが、教學課では早速これを縣教育會主催羅災兒童救済金へ廻した

〔沖繩新報〕昭和一九年二月三日付

4 避難先での那覇の子どもたち

本土への「学童疎開」で居残つた那覇の子どもたちの中には、一〇・一〇空襲直後、那覇以外の農村地域へ避難し、そのまま居すわる例も多少はあつた。しかし、その大半は翌年、いよいよ米軍の沖繩上陸が目前に迫つてからの強行避難であつた。

南部への避難は、それこそ、死地への旅同様であつたし、